

04年7月11日

国土交通省近畿地方整備局殿

淀川水系流域委員会殿

余野川ダムは止めて下流部の堤防強化に邁進を

千代延 明憲

多田地区の浸水被害軽減のために、一庫ダムの一部の利水容量（池田市、豊能町への給水相応分）を余野川ダムに振り替えて一庫ダムの治水容量を拡大する構想は、平成17年度より大阪府営水道から池田市、豊能町へ給水開始となることで、国交省の水需要の精査確認を待つまでもなく消えることになる。

こうなると、余野川ダムは治水専用ダムということになる。（水と緑の健康都市のキャッチフレーズには役立たないものになるが。）

この余野川ダムの治水能力向上分を活用して銀橋狭窄部の一部を開削し、多田地区の浸水被害のわずかな軽減をも試験的に考えているふしも国交省にはあるように思える。しかし、6月22日の中間報告から推察するに効果は少ない。

私は、余野川ダム建設の有無にかかわらず、銀橋狭窄部から下流の堤防の本格的強化は早晩やらねばならないのであるから、それなら、余野川ダム建設などに寄り道することなく、堤防強化に邁進してもらいたい。財源を堤防強化に集中すべきだと考える。

このような観点から、銀橋狭窄部全部を開削した場合の流量がどれほどになるか。それに対応するほどの堤防強化にはどのていどの財源が必要になるか。現在進められている調査が、これらの点を明らかにすると期待をこめて発表を待っている。

なお、全体の堤防強化の完了にはかなりの年月を要すると思うが、その間は堤防強化の達成度に見合わせて狭窄部の段階的開削を進めれば、余野川ダム建設への寄り道など無用なことは明々白々といわざるを得ない。